

なぜ？なぜ？先生

～みんなの不思議～



「報恩講」
なあに？
つて

親鸞さまは、私たちに正しい生き方を教えてくださいましたが、今から760年ほど昔の1月16日に90歳でお亡くなりになりました。京都の本願寺では親鸞さまにありがとうございますの気持ちをお伝えするために、1月9日～16日の8日の間「御正忌報恩講（ごしょうきほうおんこう）」という大切なお参りが毎年続けられています。また、親鸞さまを大切に思う多くのお寺でも、年に一度の最も大切なお参りとして報恩講が続いています。

親鸞さまが子どものころ、京都では、お米や野菜が全く育たない年が何年もありました。人びとは食べ物が手に入らず、病気やけがで多くの人びとが苦しんでいました。親鸞さまは幼いながらも世をうれいて、仏さまのさとりを開くため、比叡山のお寺で20年もの長い間仏教の勉強をされましたが、一生懸命に修行してもさとることができず困っておられました。その後、法然聖人というお坊さまのお弟子になり、阿弥陀さまは、私たちをすくうために一生懸命になってくださっている。そのお心を聞いて「おねんぶつ」する大切さに気付かれました。35歳のときに事情があって越後の国（今の新潟県）に移り住み、苦しい生活の人びとと田や畑と一緒に汗まみれ、泥だらけになって働きながら「おねんぶつ」の大切さをお伝えくださいました。

皆さんが保育園や幼稚園で「報恩講の歌」を歌うお参りのときは、「親鸞さまありがとうございます」の気持ちでお参りしてくださいね。